

## NEWS 第12回遠野市史編さん委員会を開催しました

11月18日(水)、第12回遠野市史編さん委員会を開催しました。今年5月に開催予定だった第11回の委員会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で書面決議となったため、委員が一同に会するのは約1年ぶりとなりました。全員がマスク着用、ソーシャルディスタンスを確保し、常時換気を行うなど対策を講じながら会議を行いました。

会議では、「資料編」の原始・古代・中世編を考古編と古代・中世編の2分冊とすることが承認されたほか、「資料編」の本の体裁や発行部数をどうするかについて活発に議論が交わされ、「読みやすいのはソフトカバーだが、保存を考えるとハードカバーのほうがよい」「DVDなどの附録をつける場合はケースがあったほうがよい」といった意見が出ていました。

また、各委員からは各部会の状況や、町方・村方の古文書が少なく苦慮していること、コロナ禍で現地調査が思うようにできないなか資料を改めて見直していることなどが報告されました。



▲会議の様子



▲各委員から様々な報告、意見がよせられました

## NEWS 古文書講座「はじめての古文書」を開講しました



▲花札に書かれている「あ可よろし」を例に、変体仮名について解説する講師の菊池秀男先生

百人一首より持続天皇の歌。▶  
「衣ほす」の「ほ」が「本」という変体仮名となっています。



国立国会図書館デジタルコレクションより

11月25日(水)から古文書講座が始まりました。今回は初めて仮名文字を中心に取り上げ、古文書に初めて触れる方でも気軽にチャレンジしていただけるよう百人一首など馴染みのある教材を使っています。

現在ひらがなは、原則一音につき一字ですが、古来複数の文字で書き表していました(例えば「あ」は「阿」「安」など)。今は使われなくなったこれらを変体仮名へんたいがなといいます。

第1回目の講座では、飲食店の看板など身近に見られる変体仮名について、ワークシートを取り組みながら学びました。



市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。  
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

## 調査レポート 阿修羅堂の調査を行いました

土淵町柏崎にある阿修羅堂<sup>あしゅら</sup>は、「遠野物語拾遺」第52話に登場するお堂で、子供たちが阿修羅像を持ち出して沼に浮かべて遊んでいたのを叱った者が、逆に阿修羅様に崇られた、という話が伝わっています。

歴史は古く、宝暦10年(1760)頃の成立とされる南部藩領内の社堂を記録した『御領分社堂』にその名が見えることから、それ以前から信仰されていたことがわかります。

阿修羅は古代インドの戦いの神ですが、後に仏教に取り入れられて仏法を守る神となりました。日本では奈良県興福寺の阿修羅像に代表されるように三面六臂<sup>さんめんろっぴ</sup>(3つの顔に6本の腕)の像が多く作られました。柏崎の阿修羅像は三面四臂<sup>さんめんよんぴ</sup>で珍しく、また阿修羅を祀っているのは市内ではここだけです。



▲阿修羅像。現在の姿は昭和50年頃彩色されたもので、かつての阿修羅像は穏やかで素朴な表情を呈していました。



「拾遺」第52話に登場する阪下の池。現在は埋まってしまい湿地になっていますが、かつては竜神が棲んでいたといわれています。



地元では「オアッシャゴ」「オアシュゴ」と呼ばれているそうです

## 調査レポート 小友町で発見された石碑の調査を行いました



▲金毘羅大権現の石碑。文字の末端と石碑の末端との間が短く、底部が削られていることから、かつては台石の上に据えられていたと考えられます。



◀発見場所と石碑

左の石碑は、11月初旬に小友町を流れる長野川と鷹鳥屋川<sup>たかとりや</sup>の合流点から、河川工事の際に発見されました。大きさは縦263cm、横63cm、奥行51cmもあり、川底から重機で川岸へ押し上げたそうです。

石碑正面には「金毘羅大権現<sup>こんひらだいこんげん</sup>」、側面には天保14年(1843)の年号や「長野」の文字、願主の男性14名の名前が刻まれていました。このことから、長野地区を中心とした人々が金毘羅大権現への参詣を記念して建立した石碑と考えられます。

金毘羅大権現<sup>ことひらく</sup>は、香川県にある現在の金刀比羅宮の旧称で、江戸時代後期に金毘羅参りが全国的に盛んに行われました。遠野でも1800年代に入ると金毘羅をはじめとする参詣記念の石碑が多く建てられていることから、人々は流行にのって参詣の旅へと出かけていたようです。